

 **セブン工業株式会社** (証券コード：7896)

株 主 通 信

第 62 期

2020年4月1日から2021年3月31日まで





ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第62期事業年度は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、かつて経験したことがない異例な状況下で推移いたしました。

こうした情勢のなか、着実性のある施策を主体とする事業運営を念頭におくとともに非住宅分野への事業領域の拡大といった施策を推進した結果、計画数値は達成した一方、売上高は減収、営業利益、経常利益は減益の結果となりましたことをご報告申し上げます。

新型コロナウイルスの脅威に加え、少子高齢化による中長期的な住宅着工戸数の減少を背景とし、真の独自性が求められる新たな局面に備え、「セブンブランド」の構築を進めてまいります。

そして今年は会社設立60周年を迎えることから原点に立ち返り、社是の理念の一つである「全員がプロになろう」を改めて一人ひとりが認識し、収益力とブランド力の向上に邁進する所存でございます。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長 木下浩一

会社の現況に関する事項 (1) 事業の経過および成果

当事業年度における我が国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、経済活動のみならず、国内外とも極めて異例な情勢下で推移いたしました。景気の先行きは、ワクチン接種など各種感染政策や海外経済の改善により、徐々に持ち直していくことが期待されるものの、感染再拡大による国内外経済の下振れリスクが存在し、依然として不透明な状況が続いております。

当住宅関連業界におきましても、新型コロ

ナウイルス感染拡大の影響による経済活動の停滞ならびに消費マインドの低下等により新設住宅着工戸数は前年同月比を下回る状況が続き、市況は悪化を辿ってきました。

こうした環境変化に対応するための体制構築を図り、経営課題である非住宅分野への事業領域の拡大や当社独自の強みを発揮できる施工性、デザイン性、機能性を追求した付加価値商品の開発・拡充および既存商品のリニューアルによる商品力の強化を図ってまいりました。またコロナ禍のなか、従業員の安全、健康を最優先とし、各種の感染防止対策を講

じるとともにITを活用した働き方改革の推進に努めてきました。

内装建材事業においては、省施工商品の拡充やデザイン、機能性をキーワードとしたオリジナルの階段製品（ツービーム、S+S t o c k、先行階段等）の展開や非住宅分野、又は新たな商流ルートへの販路拡大、カウンターを中心に顧客ニーズに即したきめ細やかな特注対応の強化を図るなど受注獲得に努めました。しかし、このような情勢下、事業活動に制限があったことに加え、市況の悪化を背景に特に階段や和風造作材の受注低迷が続いたこともあり、余儀なく定期的に休業を実施するなど厳しい事業運営となりました。

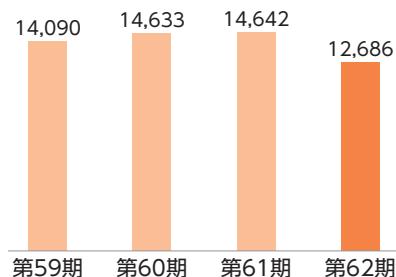
木構造建材事業においては、プレカット・パネル・建装事業が一体となった体制構築を強固に推し進めているなか、非住宅分野への積極的な取り組みや大型施設建築等建装事業の展開が奏功し、主力のプレカット事業が堅調に推移いたしました。また、地場ビルダー等新規取引先の開拓や3つの事業の一体化によるシナジーを追求する施策を講じて収益力の向上に努めてきた結果、売上高は前事業年度比で減収となったものの、大幅に収益性が改善し堅調な事業運営となりました。

期初において、当事業年度は極めて不透明な経営環境で推移することが避けられないと判断し、足元を固め着実性のある施策を主体

売上高

126億86百万円（前期比13.4%減）

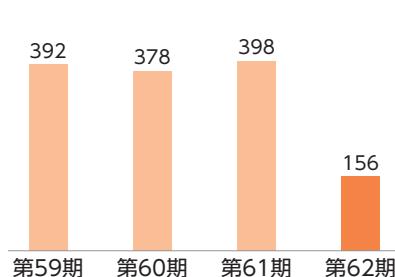
（単位：百万円）



営業利益

1億56百万円（前期比60.7%減）

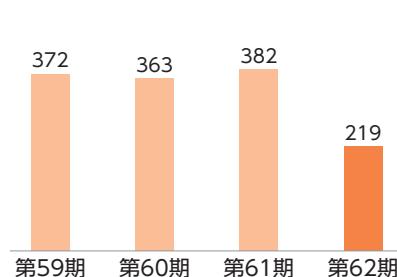
（単位：百万円）



経常利益

2億19百万円（前期比42.5%減）

（単位：百万円）



営業の概況

とする事業運営を念頭に行っていました。両事業部門とも前述した経営課題に取り組むとともに受注状況に応じた柔軟な生産体制のもと、徹底した経費削減やRPAの推進等業務の合理化を図り、収益の確保に努めた結果、予想数値は達成した一方、内装建材事業の低迷の影響が大きく、前事業年度比では売上高は減収、営業利益、経常利益は減益の結果となりました。

これらの結果、当事業年度の売上高は126億86百万円と前事業年度と比較し、19億56百万円（△13.4%）の減収となりました。

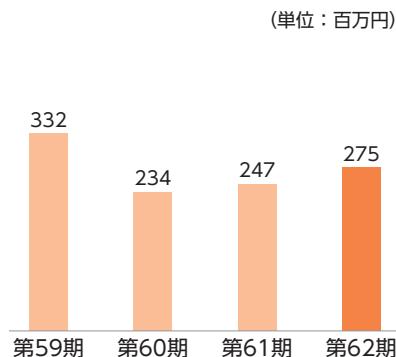
利益面では前述のとおり収益性改善の施策を図ってきたものの、減収の影響が大きく、

営業利益は1億56百万円と前事業年度と比較し2億41百万円（△60.7%）の減益、経常利益は2億19百万円と前事業年度と比較し1億62百万円（△42.5%）の減益、当期純利益は、繰延税金資産の積み増し等により2億75百万円と前事業年度と比較し28百万円（11.4%）の増益となりました。

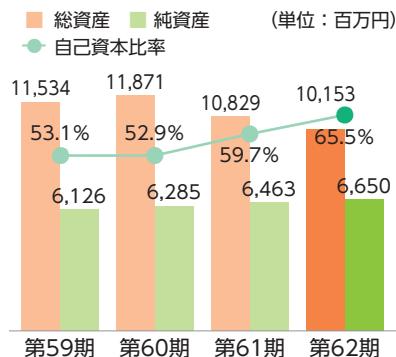
剰余金の配当につきましては、当事業年度の業績、財務状況など総合的に勘案し、1株につき7円の期末配当とさせていただきます。

当期純利益

2億75百万円（前期比11.4%増）



総資産／純資産／自己資本比率



※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第60期の期首から適用しており、第59期の総資産及び自己資本比率については、当該会計基準等を通じて適用した後の数値となっております。

1株当たり純資産／1株当たり当期純利益



※2020年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第59期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 対処すべき課題

今後の経済の見通しについては、新型コロナウイルス感染拡大の脅威は依然として続いており、海外の政治経済の不確実性や将来不安も背景に景気回復の足取りは弱く、不透明な情勢下で推移すると予想されます。我々が属する住宅業界においても市況の低迷に加え、世界的な木材資源の需給バランスの不均衡を背景とした資材価格の高騰および供給体制の混乱、更に原油価格を始めとしたエネルギーコストの上昇が憂慮され、厳しい経営環境が予測されます。

少子高齢化による中長期的な住宅着工戸数の減少を背景とし、感染症拡大の影響によって「需要の崖」の前倒しが顕著になっていくなか、真の独自性が求められる新たな局面に備え、「セブンブランド」の構築を進めます。また今年、60周年を迎えることから設立時の精神に立ち返り、社是の理念の一つである「全員がプロになろう」を改めて従業員一人ひとりが認識することで仕事・製品に付加価値を追求し、収益力とブランド力の向上に取り組んでまいります。

内装建材事業においては、マーケティング分析による販売戦略に基づくチャネルの多角化や木構造建材事業との更なる連携を通じ、非住宅

分野の増販を含めた営業強化を図ってまいります。抗ウイルス対応商品の早期開発など独自性を追求した自社製品の展開によるブランド構築と、このような時勢に対応するITの仕組みを推進し、顧客向けのWEB受注システムの拡充を図るなどDXの活用を通じた業務効率の向上を強固に推進してまいります。当社の強みである木材加工技術、塗装技術を更に高め、顧客のあらゆる要望にお応えする特注対応力の強化を図るとともに生産性向上に傾注いたします。

木構造建材事業においては、非住宅分野における営業の多角化を進め、更なる需要開拓・深耕を図るとともに地場ビルダーに対する販売強化策を講じ、収益体質の向上を企図したポートフォリオを構築してまいります。今後、資材価格の高騰が懸念されるなか、引き続きプレカット・パネル・建装事業の一体化のシナジーを更に発揮することで、コスト競争力を高めることに加え、市場から信頼される品質の提供、サッシ付中型パネルの展開など差別化戦略を推進し、「セブンブランド」の確立に資する施策を講じてまいります。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新商品紹介

エスキューブ
S+ Cube

はしごのデメリットから生み出された収納。
組立て収納ボックス「S+ Cube」



S+ Cube [エスキューブ] 組み立て収納ボックス

従来のロフト昇降用はしごのデメリットをカバーする、安心安全と収納スペースを兼ね備えた商品を発売しました。大小2種類の収納ボックス S+ Cube を積み上げていくことによって、収納だけでなく、ロフト昇降具としての役割も果たす1つで2役な優れたものです。



貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (2021年3月31日)	前事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産	5,813	6,335
固定資産	4,340	4,494
有形固定資産	3,964	4,075
無形固定資産	89	105
投資その他の資産	286	313
資産合計	10,153	10,829
負債の部		
流動負債	2,766	3,245
固定負債	736	1,120
負債合計	3,503	4,366
純資産の部		
株主資本	6,650	6,464
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,675	2,675
利益剰余金	1,745	1,559
自己株式	△244	△243
評価・換算差額等	0	△1
その他有価証券評価差額金	0	△1
純資産合計	6,650	6,463
負債及び純資産合計	10,153	10,829

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

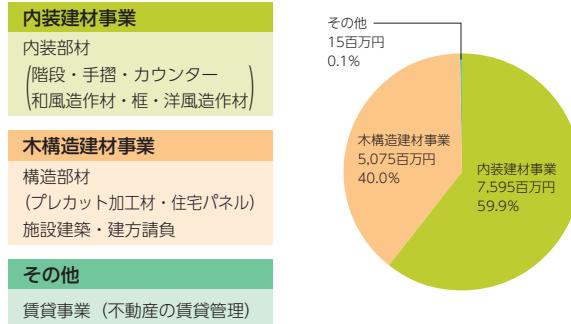
損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (2020年4月1日から 2021年3月31日まで)	前事業年度 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)
売上高	12,686	14,642
売上原価	10,588	12,173
売上総利益	2,097	2,468
販売費及び一般管理費	1,940	2,069
営業利益	156	398
営業外収益	82	6
営業外費用	19	23
経常利益	219	382
特別利益	5	14
特別損失	3	18
税引前当期純利益	222	379
法人税、住民税及び事業税	42	49
法人税等調整額	△95	82
当期純利益	275	247

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ セグメント別品目構成



詳細は [セブン工業 I R 情報](#) [検索](#)

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関
株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

☎0120-782-031

(インターネットホームページURL)

<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

上場証券取引所 東京証券取引所・名古屋証券取引所

公 告 の 方 法

電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7896/7896.html>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

■ 本 社 〒505-0016
岐阜県美濃加茂市牧野1006番地
電話 (0574) 28-7800 (代表)

UD
FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

ホームページおよび Instagramのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。また、Instagramを通じて多くの方々に当社の魅力を知っていただきたく、当社情報（製品・サービスや施工事例、行事・イベントなど、事業活動の全般）を積極的にお届けしております。ぜひ、フォローをお願いします。



セブン工業

検索

<http://www.seven-gr.co.jp/>

